巻頭特集

天空の山小屋
穂高岳山荘
―その軌跡と未来―

3000m級の山々が連なる穂高連峰。その主峰である奥穂高岳（標高3190m）と涸沢岳（標高3110m）との鞍部「あんさ」に建つ穂高岳山荘は、今年で創業91年の山小屋だ。歩くだけでも大変な岩尾根に、最初に小屋が築かれたのは大正時代。今日の姿に至るまでは、登山者の安全を願って山小屋づくりに打ち込んできた代々の主と、家族や協力者たちの奮闘の歴史があった。3年前から今田恵さんが三代目社長を務めている。山小屋は珍しい、女性の、しかも20代という若い主で、妻、母としての顔も持っている。

今回は夏山シーズンを前に、山小屋経営に挑む今田恵さん、公基さん夫妻に話を聞いた。大正、昭和、平成にわたる穂高岳山荘の歴史と、これからの山小屋づくりの意気込みとは・・・

親子二代、90年をかけて築き上げた奇跡の山荘

鞍部は山の尾根のくぼんだところを意味し、登山用語ではコルとも言う。穂高岳山荘が建つのは、白出のコルと呼ばれる標高2996mの場所で、90年余り前、「ここに山小屋を建てよう」と決め、それを実践した初代は、今田重太郎さんである。当時の上宝村蒲田温泉（現・奥飛騨温泉郷）に生まれ、山案内人となった彼は、1923（大正12）年に客を案内して槍ヶ岳から穂高を縦走した際、稜線上で暴風雨に遭遇。ろうじて涸沢の岩小屋に避難して事なきを得たが、その経験から穂高の稜線上に避難小屋が必要と痛感し、調査の結果、白出のコルに白羽の矢を立てた。そして翌24年には石室、25年には20人程度を収容できる小屋を完成させたのである。「『昔、重太郎さんを手伝って』よく歩荷（ぼっか）をやったよ」なんて話してくださる方もいて、地元の方々にもいろいろお世話になったみたいです」と恵さん。歩荷とは荷物を背負って運搬することで、当然のことながら、山小屋づくりは全てが手作業。当時、資材も道具も一つ一つ人力で山に運んだことは明白だが、険しい稜線に貼りつくように建つ山荘の写真を見ると、その苦労が偲ばれる。

穂高岳山荘の礎を築いた、初代 今田重太郎さん

そんな重太郎さんの後を継ぎ、二代目となったのは英雄さん。恵さんの父親である。英雄さんは重太郎さんの一番上の兄の娘の子どもで、1965（昭和40）年、大学卒業後に今田家に養子に入った。当初は英雄さんの妹の紀美子さんが重太郎さんの養女となり、ゆくゆくは後継者にと期待をかけられていたが、まだ山小屋には水も電気もなく、成長とともに女性が経営していくのは無理という結論に至り、英雄さんが継ぐことになった。その頃の山は昭和30年代から始まった登山ブームに沸き、ヘリコプターによる荷揚げも始まっていた。

英雄さんは、まず登山者が捨てたゴミの清掃活動に着手。さらに山荘の景観も端正な峰々にふさわしい整然としたものにしようと敷地を整えていった。その後、新館、新新館を増築、涸沢岳側の庭も拡張し、石を敷き詰めた。

また、風車や太陽光パネルをいち早く導入し、自然エネルギーの活用を推進。電気に詳しい従業員と一緒に、工夫を重ねながら独自の発電システムを作り上げていった。その甲斐あって現在の穂高岳山荘の燃料消費量は、同規模の山小屋の4分の1程度だという。

山荘に入って間もない頃の若き英雄さんと妹の紀美子さん

初期の穂高小屋　当時の仲間と（左端が重太郎さん）

奥穂高岳山頂に石を積み上げ神社を置いた

1967年頃 当時は空き缶がたくさん捨てられ、山荘に入った英雄さんがまず行ったのはゴミ拾いだった

現在の穂高岳山荘
石垣と石畳が風景と調和する。屋根には太陽光発電のパネルが設置されている

1975年頃の旧本館と新館

三代目の主は、妻であり、母でもある二〇代女性

「初代がゼロから礎を築き、二代目は、環境やエネルギーという新しい視点をもって、山荘を発展、進化させました。二人とも本当に偉大な存在です。重太郎新道や紀美子平など、穂高には親族の名前が付いている場所もあって、そういう家系に生まれたんだなあという誇りと責任を感じます」。一人娘である恵さんが、父の背中に背負われて初めて山荘に来たのは4歳の時だったという。以来、山が遊び場になり、毎年、夏休みは山荘で過ごした。「景色は最高だし、いろいろな人がいて、私にとって山荘はとても楽しい場所でした。将来は継ぐことになるのかなという意識は持っていましたね」と恵さんはふり返る。

そんな思いが現実味を帯びたのは、早稲田大学3年の就活の時だ。「どこか、就職してマ、3年は別の仕事をしようかとも思ったのですが、60代半ばになっていた父の体調も心配になり、いずれ山荘を継ぐのであれば、早く入って一緒に働きながらいろいろ教えてもらった方がいいと決心しました。父は直接、継ぐべくれと言ったことはなく、『継いでくれたら嬉しいけれど、好きにしていい』と、私の気持ちを尊重してくれていたので、かえってそう考えたのかもしれません。今にして思えば、あれは作戦だったのかな」と笑う。かくして恵さんは、2008（平成20）年、大学卒業と同時に帰郷し、有限会社 穂高岳山荘に入社。翌年、大学時代の同級生であった公基さんと結婚し、2011（平成23）年、26歳で社長に就任した。当初は東京で働く公基さんとは離れての生活だったが、昨年、長女誕生と同時期に公基さんも飛騨へ転居、山荘に入社して公私ともに恵さんのパートナーになった。

東京での大学生活を経てふるさとに戻った恵さんは「山は財産」と改めて感じたという。「地元にいると山は当たり前の存在ですが、こんなに素晴らしい山が身近にあるのは、実はすごく恵まれたことなんです」と力を込める。こちらで暮し始めたばかりの公基さんに至っては、山も山荘暮しも日々新鮮なことばかり。「登山道で、どこにどう足を置いたらよいのかわからず怖い思いをしたり、山荘でお風呂に入れないことに素直に驚いたりしました。日々発見や学びの連続ですよ」と苦笑する。「でも、彼のそういう新鮮な感覚がこれからの山小屋づくりや登山道の整備に生かせると思っています。小さな頃から山の生活に馴染んでいる私は、すでに既成概念があって気づけないこともあるかもしれません。外から入ってきた彼の視線で、そういう部分をカバーしてもらえるのではないでしょうか」と恵さん。若い二人が力をあわせながら、山荘の未来をつくっていくことは間違いない。

公私ともに頼りになる恵さんのパートナー、公基さん

恵さんと娘の瑠梨ちゃん

情報インフラを整備して新時代を拓く

恵さんが山荘経営に携わるようになってから始めた情報インフラの整備は、新時代を拓く取り組みの一つだ。入社した夏には山荘公式ウエブサイトを開設し、山荘や穂高の情報発信を開始。ブログやフェイスブック、ツイッターも活用し、日々タイムリーで正確な情報を届けることに努めている。ウエブサイトでは穂高の美しい写真なども見られるので、登山を考える人はもとより、誰が見ても楽しめる。

「父の時代は『宣伝してもらうところではない』という感覚で、それは確かに今も同じですが、ネットは今や宣伝を見る場ではなく情報収集の要。どこへ行くにも、まずはネットを使って情報を収集する時代です。登山にしてもウエブできちんとした情報を入手できたら安心で準備にも役立つはずです。また、登山はできなくても、映像を見て、『穂高はこんなに素晴らしい場所なんだ、こんな景色があるんだ』とたくさんの人に知ってもらえたらうれしい。外国人の登山者も増えているので、これからは世界に向けて情報発信していくことが重要だと思っています」と意欲を見せる。大学卒業後、通信会社に勤務した公基さんも情報関連は得意とする分野だ。

山荘では、昨年からWｉｆｉを登山者にも開放。約3000mの天空にいながら、インターネットがストレス無く利用できるようになった。通信環境がこれほど整っているのは、山小屋では珍しいという。通信環境の向上によって、穂高岳山荘では、従来山の上で行わねばならなかった事務仕事が神岡の事務所でも処理できるようになった。子育てもしなければならない恵さんが、山に行かなくても仕事ができるのは、通信技術の進歩によるところも大きい。

「山は変わらないけれど、時代は移り、求められるものも変わっていきます。山荘が一歩外に出れば死の危険にさらされる厳しい自然の中にあることは絶対に忘れてはならず、登山者の方々の命をお預かりする場所であるという事実は決して揺るぎません。その中で、穂高岳山というかけがえのない時間を過ごしていただくために、どのような場と体験を提供していくのかは考えていくべき課題です」。「穂高という山を生かし、そこに生かされていることの喜びを感じていけるような仕事をしたいですし、その喜びを登山者の皆さんにも感じてもらうためのお手伝い。これが私たちの役割だと思っています」と二人は思いを語る。

大部屋

食事の一例

母としての眼差しが自らを成長させる。

まもなく母の日。山荘に入社し、母親の敏さんに代わって事務仕事も担当するようになった恵さんは、「50年ぶりに仕事を引き継げた」という母の言葉に、英雄さんを陰ながら支えてきた敏子さんの苦労を実感したという。そして恵さん自身も、昨年、母となった。「若くして偉大な祖父、父の後を受け継ぐ、三代目となったことに、かなりのプレッシャーを感じていました。でも、母になって初めて一人前の大人になった気がして、自分の立場に自信が出てきたんです。やっぱり、母は強しですね」と目を輝かせる。

今、恵さんは、わが子に気づかされることも多いとか。「子どもってまっさらで、未知のものがあれば、どんどん向かっていくでしょう。もしかしたら、人が山に登るのも、そんな気持ちと通じるのではないでしょうか。いろいろなことを原点に戻って考えてみることも大切だと感じます」。

長女の名は瑠璃ちゃん。瑠々しい心で、あらゆるものを吸収しつつ成長していく子どもの姿に、恵さん、公基さんは、フレッシュな眼差しとスタンスで、これから山荘の新時代を紡いでいくことだろう。

穂高岳山荘
http://www.hotakadakesanso.com/

参考文献
穂高岳山荘創立90年記念誌『山歩みち』
発行：穂フィーダー北ラヴァン
送付：穂高岳山荘 公式ウェブサイト
配布：登山&ウクロードアクショップ KONG
写真提供　内田修／穂高岳山荘